

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人上越あたご福祉会 グループホーム新井
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県妙高市高柳2丁目6番2号
記入者名 (管理者)	杉谷 知美
記入日	平成 21 年 4 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>【人としてその人らしく生きる為に】の理念を原点として想い、努めている。その方の人生に寄り添って生きる支援を大切にしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の申し送り、会議等を機会にしている。ホームの理念を見やすい場所に掲示して常に意識している。日々のふれあいについて職員と理念を話し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの玄関の見やすい所に掲示したり、地域への回覧、家族様への広報誌の発行で、理解して頂けるよう努めている。面会時も家族の方と理念 プラン等についても話し合っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に散歩や買い物など出かけ、立ち話からふれあいの場を大事にしている。お茶飲みに寄って下さい。とお誘いの声かけしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域等の行事に参加している。ホーム全体としての行事についても参加して頂けるよう努めている。賽の神、季節のお祭り等、散歩の途中に犬を仲介にして話し合う。</p>	<p>今後も互いに助け合い 顔見知りの関係を強く持てるような地域でのなじみを大事に築いていきたい</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	複合施設の地域交流スペースで、招くボランティアを見に来て頂けるように声をかけている。		複合施設の地域交流スペースの場所の提供、避難場所、地域への活動の場、憩える集まりの場に行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、外部評価の結果は、会議で報告し改善に努めている。		自分のホームが、寄り良く過ごして行けるように職員全員が、自己評価に取り組み、話し合いの場をたくさん取って行きたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	委員の方達の意見を聞いてホームとして、沿えるように改善している。		外部評価の結果を報告し、第三者としての意見を頂き、見直している。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	実際、市の窓口で相談に行ったり、電話で事情を話し助言を受けている。色々な面で、過去には、突然の訪問もあり、会話を重ねることにお互いに理解し合えて来ている。		実施指導にて意見を頂いている。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修会に参加し理解し理解を深め必要時は、市役所へ相談しようと思っている。		職員全員に対しても理解の徹底をして行きたい
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	外部研修の参加と職場内研修を行い虐待防止に努めている。		定期的な話し合いの場を設けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入所時面会時等利用し、説明を行っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	時々に応じて意見や不満等聞き、月1回カンファレンスを行い改善に努めている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時、受診時、電話等家族に連絡している。又年4回の広報誌でもお知らせしている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族様には、面会時お話しできる場を設けて、意見を頂いて伺い職員会議に提示していくようにしている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	日々申し送り、会議等を機会にしている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	パート職員を増員し無理のない勤務調整に努めている。		入居者の状態に合わせて勤務調整に努めている。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染みの職員を保つ為最小限に抑えるよう努めている。新職員の場合は、ダブルで、1ヶ月間組んで熟知していく。		家族のような構成を持つように職員の配置にも心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、積極的に受けるようにしている。働きながらのスキルアップにも取り組んでいる。	研修報告は、毎月全体会議にて発表している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政と共に地域の同業者と交流する機会を持てるように努めている。	研修会の出席により情報交換に努めている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	隣接施設との忘年会等職員同士の親睦を深める機会を設けている。ホーム内でも会食を設け、ストレス解消に努めている。	ストレス軽減を図れるように悩みの聴取や雰囲気、有給休暇消化、無理のない勤務体制に努めていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場を第一に考え、個人のやる気を持たせる為、仕事の分担を明確にして職員の業務や悩みを受け入れている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、必ず本人に合って本人の思いに向き合い聞く機会を作っている。家族様ケアマネジャーからの情報も得ている。	本人自身から今、一番困っていることを生活していく中で、大変に思っていることを伺い、受け止め努力して行きたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、必ず見学に来て頂き、最初にまず、感じて頂いて納得行くまで、よく聞く機会を作り努めている。	家族様、ご本人様が、安心して頂けるまで、情報を共有して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り本人の生活、行動から判断して家族様と相談をし、対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族様と共に来て頂き、安心できる場を努めている。入浴を拒否された場合があり、家族様から来ていただいて、入浴されるまで、見守り声掛けし、スムーズに出来た事例がある。		家族様の協力を頂きながら無理せず、第一に安心できるように取り組んでいる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として共に支え合い調理、漬物の方法を教わることが、ある。畑も教わりながら作っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくりとして頂けるようにお茶を飲みながら様子など情報共有し、共に支えあうように支援している。		第二の家として家族様、利用者様の安らぎを持てる場にして行きたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームが、間に入ることにより間接的により良い関係となっている事例がある。		面会にたくさん来て頂けるような支援をして行きたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所へ、行事計画として思い出の地を訪問し、喜んで頂けている。知人、友人の訪問を継続できるように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	良い関わりが、ある時は、そっと見守り、他者との意見の食い違いが、あった時は、よく説明し、関係が悪くならないように努めている。		役割を待つことで、利用者同士が助け合い仲良く過ごしていける関係を作って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	以前利用されていたご家族が、ボランティアとして未長い交流を大事にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりの中で、把握に努めている。ご家族様を通して情報を得ていることもある。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞いた生活歴、サービスの経過から担当者会議の中からプランとして計画している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日頃の状態を見ながらカンファレンスして対応方法を考えていくようにしている。		できることをたくさん見つけ出しやりがいの持てる、生きがいを感じられるように取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所、面会時に家族から生活歴、生活行動を考慮して、今一番何が必要としているかを考えてプランに反映している。		チームで、話し合いたくさんの意見の中から介護計画を行っている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化時、定期的に6ヶ月ごとの見直し、3ヶ月ごとの経過観察をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、毎日の申し送り、職員の経験、気づき、アイデアを取り入れて介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算体制では、ないが、隣接デイサービス看護師と連携し、緊急時対応定期的な健康チェックを行い支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会では、民生委員、地域代表、文化、教育機関では、警察、消防と協力している。地域の方のボランティアの受け入れもしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所、退所時必要に応じて他のサービス事業者との連携しながら進めている。		他の事業者との横のつながりを大事に情報を共有していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じて、地域包括支援センターに相談し解決している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医となっている。受診や通院は、基本的には、家族同行の受診となっているが、緊急時は、職員が、代行するようにしている。		適切な医療が、受けられるようにホームの様子、経過については、手紙にて情報を伝達している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症が、進む中で、眠れなくなり体重の減少などから家族様と相談しながら専門医の紹介、医療機関の紹介をしている。		早目に診断して頂ける、地域の中での相談窓口として行きたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	複合施設の職員である看護師から定期的な健康チェックと相談をしている。		緊急時は、」すぐにかかけつけ指示をして頂いている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との情報交換、退院後の過ごし方など相談し努めている。		今後も横の連携を大事に情報を共有し利用者が、安心して過ごせるように取り組んで行きたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の過ごし方については、家族、職員で、機会を見て話し合い。受診時に主治医から指導を受け、入院され1ヶ月後に死亡となる事例がある。		本人、家族、職員、医師との連携を取り、安心して納得できるような終末期を考えて取り組んで行きたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は、特養への申し込みを頂いているが、家族から希望が、あれば、ホームでの看取りをしたい方針である。		きちんとした話し合いを持つことで、チーム全体で一つになり支援していく必要がある。医療 家族 職員
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院への入院が多い。特養へ住み替えられた際、家族及びケア関係者間で、十分話し合い納得されて行かれた。		他事業所へ移られた時は、情報を提供し、ダメージ防止に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の研修の機会を多く持って意識を新たにできるようにしている。	個人情報の取り扱いには、注意深く秘密保持に努めている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の自立を第一に気持ちを尊重して考えて頂く姿勢で、接している。	自己決定をして頂けるように自立心を大事に接し、支援している。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や思い、やりがいのある生活、今までの生活に添った支援をしている。	今までの歩んできた人生を尊重してホームの中で、その人らしい生活を目指して行きたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容については、家族が、美容院へ付き添う方もおられる。主張理容を利用する場合もある。ホームの近くで、あれば、お出掛けし美容院へ行かれたこともある。	外出時など洋服や化粧には、気を配り普段でもおしゃれの気持ちを大事に努めている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューを聞き、取り入れて食事の準備から片付けまでそれぞれ楽しみながらされている。	畑を利用し、自分で作り、世話をし、収穫と野菜を取り入れている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われている方が、以前いらっしゃいましたが、喫煙場所にて吸われたり、晩酌を楽しまれました。	昔からのなじみな物、好む物を取り入れ楽しめるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、気分を損ねないような一部介助をして気持ち良くできるように支援している。		その方の様子、サインを見逃さず気づきを大事に取り組んでいる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日入浴を基本として、本人希望を考慮して、時間も好みに合わせて、自由に行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、安眠をできるようにしている。一人一人の体調を考慮して休息が、取れるような支援をしている。		寝付けない時は、いっしょに添い寝やしばらく付き添いでいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験を取り入れ、得意分野を見極め仕事を頼み、感謝の言葉を必ず伝え、喜びのある日々になるよう取り組んでいる。		生活歴に対して得意な分野を見つけ出し今後も取り組んでいきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に、こづかい銭として家族よりお預かりし、外出時やほしい物は、買い物として個人的に使って頂くようにしている。		ご自分の必要な買い物は、自ら購入するよう支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物、散歩は、日常的に出るよう心がけている。行事計画としてもピクニック会食や紅葉ドライブなど計画的に支援している。		近所の方とのふれあいを大事に近隣の散歩には、積極的に取り組んでいるし、今後も取り組んでいきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別計画として利用者の思い出の場所への訪問を計画して外出している。		四季を感じて頂ける外出支援を努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族 知人からの電話を繋ぎ、取次ぎをしている。手紙についても取次ぎ個人の気持ちに対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの関係を大事に訪問者には、利用者の家へ遊びに来ているように気楽に過ごして頂けるようにしている。		次に続く関係 何回も気楽に来て頂けるどなたでも立ち寄れる雰囲気作りを心がけたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り時、その日のケアを振り返り自覚し合い 身体拘束の発見に努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけない。存在を意識するように努めている。		自分に置き換えどんな気持ちか考え今後も取り組んで行く。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホール内 居室と プライバシーに配慮しながら24時間すべての行動に危険が、ないようにしている。		事故報告書、ヒヤリハット書を記入し、職員全員が、申し送り 再発防止に努めている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が、必要な物品については、家族と相談している。その他皆様に必要な物は、収納し必要に応じて鍵のかかるように保管している。		危険、けががないように随時行っている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為に救急法の研修、防火訓練をしている。個々のカンファレンスで、検討している。		発生した場合は、すぐに事故報告書 ヒヤリハットを記入し、職員間でカンファレンス 対策、経過に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防災訓練と共に救急処置手当での講習は、計画し実施している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方との合同避難訓練を年1回実施している。自警消防団の方からも訓練時に協力して頂いている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族様と面会時など色々な場合を想定して確認している。		緊急時は、電話等で相談し意見、理解を頂いている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	隣接のデイサービス看護師より定期的診て頂きながら記録に残し受診に繋げている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を整理し確認している。服薬時は、本人に手渡しし、きちんと飲んだことを確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	以前薬を飲んでいた方も食事と生活改善にて便秘解消する。		便秘予防は、野菜料理の工夫、朝の牛乳、歩け歩け運動、家事、畑仕事など体を動かし、適度な運動を設けて自然な排便に取り組んでいる。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがい歯磨き義歯洗浄の徹底している。ケアハウスと合同で、同法人の管理栄養士から口腔ケア講習会にも参加している。		入れ歯の管理、清潔保持に今後も努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	認知症が、進行する中で、体重減の為栄養士と連携し摂取カロリー、食事量など改善している。		水分摂取に心がけ、体重変化に注意している。栄養面については、献立を管理栄養士から定期的に見て頂いている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの見直しを行っている。流行前に複合施設合同で、勉強会も実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	月1回、衛生検査を実施している。その後結果報告され指導も頂いている。グルホ農園で採れた新鮮で無農薬な野菜を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの看板を作りホームですとアピールしている。玄関の前では、ひと休みできるようにチェアを備えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の視線を考えて空間づくりを心がけている。家族様と思い出の写真を飾り、いつもいっしょにいるという安心感を持って頂いている方もいる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の部屋があるので、それぞれにひと息つかれてホールで、安心できる。ソフトな対応に努めている。		利用者同士、交流の場を互いにの部屋にて過ごして頂けるような工夫もしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、なじみな物を取り入れて頂くように家族にお願いしている。その他は、行事の時に本人好みのプレゼントを飾って頂いたりご家族との写真を飾っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時と昼食後と定期的に換気に努めている。トイレには、換気扇、消臭剤で、臭いが、こもらないように努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋、廊下には、てすり等利用して頂いている。トイレも一人用、車椅子用と身体機能の状態により利用している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとってわかりやすい表示に努めている。利用者さんの目線を大事に心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先は、鉢花やベンチを置いてありベランダでは、お茶飲みをしたりして畑や外の様子を感じられている。		安心で、安全に自由な活動が、できるように努めて行きたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の思いを受け入れて良い人生として安心できるように、家庭的な暮らしを大事にしている。その方のできることを見出し見つけながら行っている。